



前立腺がんホルモン注射を 受けられる患者さんへ



地域医療支援病院

社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院

はじめに

- がんの治療では、患者さんが自分の治療の目的や効果、これから使う薬について十分理解し納得していただいた上で治療を進めることが大切です。
- この冊子は、治療薬の働きや効果、副作用、治療時の注意点など、患者さんに知っておいていただきたい事柄をまとめたものです。
- 内分泌療法は、副作用が比較的少なく身体への負担が軽いのが特徴ですが、副作用の出現は患者さんによってさまざまです。よりよい形で治療を継続できるよう、主治医を中心としたチームで関わらせていただきます。

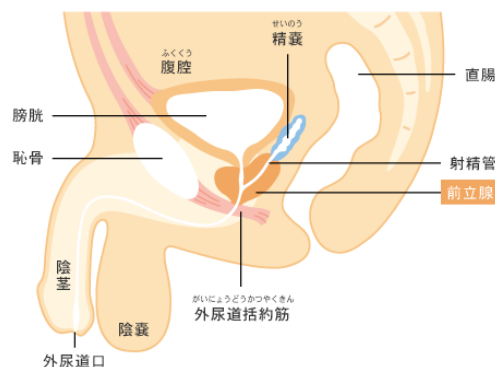
- 内分泌療法は、長い時間をかけてじっくり取り組む治療法です。あせらず決められたスケジュールにしたがって治療を続けていきましょう。
- 専門の知識・技術を有した看護師が患者さんひとりひとりに合わせた具体的なサポートを継続的に行うために、専用の注射室を設けています。お困りごとや分からないことは何でもご相談ください。



内分泌療法について

- **前立腺がんは、多くが男性ホルモンの影響を受けて成長・増殖します。**

前立腺は男性の生殖器のひとつで、その成長や働きが、主に精巣で作られる男性ホルモンに影響されています。



前立腺がんも同様に、その多くが男性ホルモンに影響を受けており、男性ホルモンの働きによって、がん細胞の発育や増殖が促されています。

前立腺がんは、欧米において頻度の高いがんでしたが、最近では日本でも社会の高齢化や食生活の欧米化などの影響により、患者さんの数が増えています。

- **内分泌療法は、男性ホルモンの働きを抑え、前立腺がんの増殖を抑える大切な治療法です。**

男性ホルモンの働きを抑え、前立腺がん細胞の増殖を抑える治療法を内分泌療法といいます。

前立腺がんの内分泌療法は、多くの患者さんに効果が認められています。また、年齢やがんの広がり具合（病期）にかかわらず、どの状態の患者さんにも行えることから、前立腺がんの大切な治療法となっています。

薬の種類

- 内分泌療法で使われる主な薬剤は、大きく**3つの種類**に分けられます。
- LH-RHアゴニスト製剤（注射）
- 抗男性ホルモン剤（内服）
- 女性ホルモン剤（内服）

薬剤名（投与法）	主な作用
LH-RHアゴニスト製剤 (4週または3か月に1回皮下投与)	精巣でつくられる男性ホルモン（テストステロン）の分泌を抑制し、がんの増殖を抑える
抗男性ホルモン剤 (毎日経口)	男性ホルモンが、前立腺がん細胞に働くのをブロックして、がんの増殖を抑える
女性ホルモン剤 (毎日経口)	女性ホルモン（エストロゲン）を投与することで、精巣からの男性ホルモン（テストステロン）の分泌を抑制し、がんの増殖を抑える

- 今回の治療で用いられるのが、
「LH-RHアゴニスト製剤」の注射薬です。

他の働きの異なる内分泌療法剤と組み合わせて用いる場合もあります。

いつ、どの薬剤を用いるかについては、患者さんの年齢や病期、それまでの治療歴なども考えながら選択します。



LH-RHアゴニスト製剤 について

- **精巣（睾丸）からの男性ホルモンの分泌を抑えて前立腺がん細胞の増殖を抑える注射薬です。**

男性ホルモン（テストステロン）は、主に精巣（睾丸）で作られています。

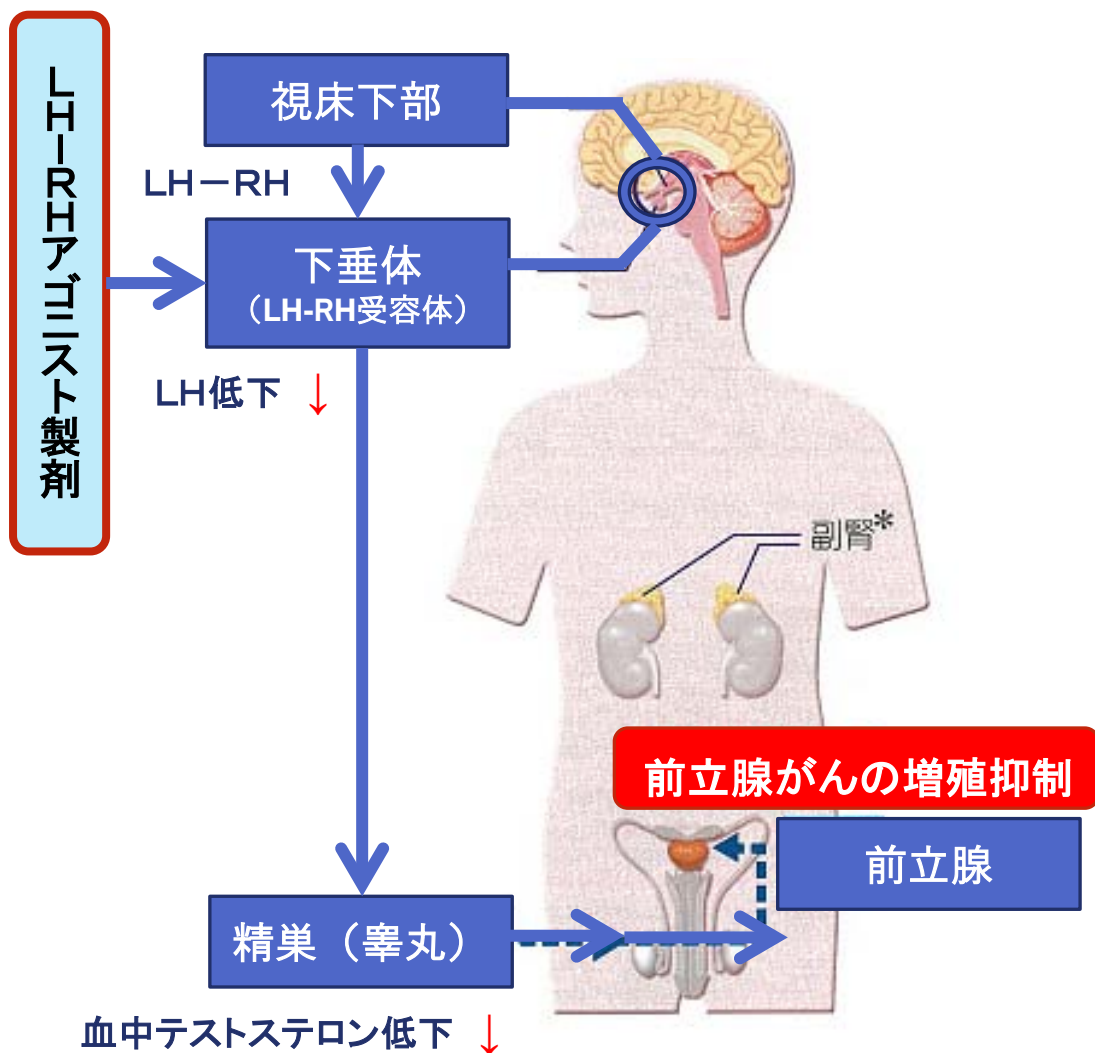
LH-RHアゴニスト製剤は、下垂体に作用して精巣での男性ホルモンの分泌を抑制し、前立腺がんの増殖を抑えます。

LH-RHアゴニスト製剤は3か月持続型のものと、1か月持続型のものがあります。

薬の種類	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
3か月持続型	↓			↓			↓
1か月持続型	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

LH-RHアゴニスト製剤 の働き

精巣（睾丸）の男性ホルモンの分泌は、脳の視床下部や下垂体から放出される性腺刺激ホルモンによって調節されています。LH-RHアゴニスト製剤は、下垂体に作用して性腺刺激ホルモンに影響を与え、精巣からのテストステロンの分泌を抑えることで前立腺がんの増殖を抑制します。



治療効果

- 手術で精巣を摘出したときと同様のテストステロン抑制効果を発揮します。

LH-RHアゴニスト製剤は、体内に入ると薬効成分が徐々に放出される徐放性の薬（デポ剤）で、注射で投与します。

3か月持続型のものと、1か月持続型のものは、どちらのタイプでも効果と安全性は同様です。

注射治療を始めると、約3～4週で両側精巣を手術で摘出した場合と同じレベルにまで男性ホルモン（テストステロン）が低下します。継続投与によって効果が持続します。

治療スケジュール

- 内分泌治療は、長期にわたり行われます。薬剤の持続時間が過ぎると効果が弱まってしまいます。決められたスケジュールをきちんと守り、定期的に受診しましょう。

治療スケジュール

4週（28日）ごと

または

3か月（12～13週）ごと



副作用

- 副作用のほとんどはホルモンバランスが崩れることによるものです。

初めての投与から1か月間は、骨が痛い、尿が出ない・出にくい、背中が痛い、しびれるなどの症状があらわれることがあります。これらは一時的に血中のテストステロンが上昇したことによる一過性の症状と考えられます。（フレアーアップといいます）

顔や体がほてる、汗をかく、乳房が痛んだり、はる感じがする、倦怠感を感じる、性欲がなくなる、勃起力が低下する、などの症状があらわれることがあります。

気になる症状があらわれたときは、スタッフにすぐにご相談ください。

特に注意すべき副作用

- 骨が痛い・尿が出ない・尿が出にくくなる・背中が痛い・しびれなど（**前立腺がん随伴症状の増悪**）
- 顔、くちびる、舌、のどが腫れる・足が腫れる・物が飲み込みにくい・息ができない・発熱・発疹がでる（**アナフィラキシー**）
- 息切れがする・息苦しい・から咳がでる・発熱（**間質性肺炎**）
- 発熱・発疹・からだがだるい・かゆみ・吐き気・食欲がない・皮膚や白目が黄色くなる（**肝機能障害、黄疸**）
- のどが渇く・大量の水を飲む・尿量の増加・疲れやすい・体重の減少（**糖尿病の発症又は増悪**）

注意すべき副作用

- 血圧の変動
- 発疹・かゆみ
- 乳房が痛んだりはる感じがする、性欲がなくなる、ぼつき力が低下する
- 骨が痛い
- 動悸・息切れがする・からだがだるい・疲れやすい・食欲がない・顔やまぶたのうらが白っぽい・手足が冷える
- 注射した箇所から血がでる・あおあざができる・はれてい
る・注射した箇所のしこり・痛み
- 顔がほてる・急に顔が熱くなる、汗がでる、熱がでる、体が
ほてる、顔や手足がむくむ・まぶたがはれぼったい、食欲が
ない、体重が増える、からだがだるい
- しびれる・ちくちくする感じ、実際にはない物が見えたり聞
こえたりするように感じる
- 吐き気がする・吐く
- 関節が痛い、骨がもろくなる
- のどの痛み・発熱・歯ぐきや鼻などから出血しやすい・出血
がとまりにくい・鼻血がでる

治療費

- **LH-RHアゴニスト製剤の種類によって治療費は異なります。**

- **1か月持続型**

- ゾラデックス®3.6mgデポ 約¥40000
- リュープリン®3.75mg注射キット 約¥42000

- **3か月持続型**

- ゾラデックス®LA10.8mgデポ 約¥71000
- リュープリン®SR11.25mg注射キット
約¥76000

- 既往症や通院頻度等を含めて、薬剤の選択を行っています。



例) ゾラデックス®LA10.8mgデポ注射
(3か月持続型製剤)
1回の治療費のめやす

薬剤料	約 ￥71000
診察料・指導料	約 ￥5700
手技料	約 ￥4500
検査料	約 ￥3300
計	約 ￥84500

(3割負担で¥26000 1割負担で¥8500)

- 医療費に関するご相談がございましたら、化学療法室のスタッフに遠慮なくお声かけください。
- また、地域支援相談室（中央病院1階中央受付向かい）にて医療ソーシャルワーカーもご相談をお受けいたしますのでご利用ください。

注射室のご案内



本館とつながっている
渡り廊下です。

1階は放射線治療室です。

1階には図書・情報コーナーもあります。

2階：注射室



2階が化学療法室です。

2階の『診察室 2』で化学療法室スタッフが注射を行います。

注射室の環境

- 注射室にはお話をうかがうための面談スペースと、注射をおこなうための診察台をもうけています。



- 分からないことや不安なこと、治療中に気になる症状があったときは、遠慮せずに相談してください。いろいろな希望があれば医師に伝えることも大切です。納得のいく治療が続けられるようサポートいたします。
- 当注射室は「外来化学療法加算」認定を受けている施設です。注射は専門のトレーニングを受けたスタッフが行います。

注射の流れ

診察予約表の案内に沿って来院してください。

・ 診察前に採血がある場合は、予約時間より早めの来院をご案内します。

各外来に来て、診察までお待ちください。

・ 一般採血の結果は、約1時間で出ます。PSAの結果は1週間後になりますので、次回受診時に結果はお伝えします。

医師が体調を確認して注射をおこなうかを決めます。

・ 体調がすぐれない、熱があるなど気になる症状がある際は、必ず診察時にお伝えください。

実施の場合

中止の場合

注射室にお越しください。

会計後、帰宅になります。

注射室で注射を受けます。

注射が終了したら、会計後お帰りください。



注射後の注意点

- 注射した場所は、もまないでください。
- 注射を行った日はお腹を激しく動かすような過度な運動は避けてください。
- 注射を行った直後（約2時間）の入浴やサウナは避けてください。
- 出血がみられた場合には、5分程度注射部位を軽く押さえてください。
- 他の医療機関を受診する場合や薬局で薬を買う場合は、前立腺がんの内分泌療法を行っていることを伝えてください。
- 他の医療機関で内服薬が追加となった場合には、お伝えください。

電話相談方法

- 下記の症状があった場合には、ご連絡ください。

- 注射部位周囲の腫れ
- 注射部位周囲の痛み
- 注射部位周囲の肌の色の変化（内出血）
- 気分が悪い
- 動悸
- 冷や汗がでる



岡山中央病院代表電話番号

086-252-3221

- 平日の8時30分～17時：化学療法室スタッフ
- その他の時間：救急外来スタッフ

が対応させていただきます。

- 「前立腺がんの注射治療を受けている〇〇です」とお伝えください。

メモ

- お聞きになりたいことがあったらメモに書き留めておきましょう。

次回の注射予定日を書いておきましょう。

☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日
☐	年	月	日	曜日

【電話相談時連絡先】

086-252-3221

（岡山中央病院代表番号）

